議員研修を終えて

本年四月の改選後初の定例会を終了した際、これからの村づくりのため国会議員の方々に陳情し、あわせて議会議員の見識を深めるため、研修視察旅行が計画されました。

日程は六月三十日から七月二日までの二泊三日で、成田空港視察と東京の陳情、伊豆半島を見学することでした。

研修を終りふりかえってみますと、この間にさまざまな体験を得ることができましたが、今回は紙面の都合で簡単に感想をまじえながら記述することに致します。

第一日の視察地は成田空港でした。私達は上越線で上野駅につき、京成電鉄に乗り換え成田駅におり成田市役所に向いました。成田市役所では議会議長より空港の実状を知らされました。

千葉県知事が代執行し、収用した土地にはすでに施設が完成されているのに航空機が使用する燃料輸送にまずつまづきを生じているということでした。千葉市から成田までの二kMは既にパイプラインが伏設されたのだそうですが、その先鹿島港から千葉市までの区間で地域住民の反対にあい、全く手をあげていて有効な方法がまだ決定されていなく、国に働きかけるにも、窓口の担当係官が幾度となく変り、事態の認識が遅れ、いちいち最初に立ち返っているのだそうで困りきった様子でした。

私達は市役所で用意していただいたマイクロバスで十五分位乗って空港につきました。敷地内は有刺鉄線がはりめぐらされて出入りは厳重に監視されていました。面積一、〇六五ヘクタールと本村全体の二倍、羽田空港の二・六倍、その中に空港管理ビル、ホテル、日航貨物ビル等高層ビルが軒並。空港管理室の係員より説明を受けながら、最初にターミナルビルに案内されました。この字形に設計され中央のビルをはさんで南ウイング、北ウイングと表示されていました。私達は日本航空が使用する北ウィングに入りました。地上四階地下一階のビルで屋根構造が特殊になって巾約百M、長さ二百五十Mの間屋根を支える柱を中間に一本も使用しないで、見透しを良くする工法が採用されていました。建設した高層ホテルが全く利用客がなく月何百万円かの利息を支払って倒産寸前だとのこと。それそこに設置されている機械は最近の技術を駆使し、大量の乗降客をベルトコンベア方式にのせて旅行者の荷物、身体を事前にチェックできる厳重な監視体制がとられています。そこを出て私達は滑走路を走りました。長さ四千M、巾六〇Mで脇には動物検疫所、給油、給水センター、整備用格納庫、消防署と大きな建物ができていました。が滑走路を終ったところに反対住民が最後の砦としている三〇M土の鉄搭が二本、滑走路のセンターにキチント標準を合わせ立っていました。詳しくは紙面の関係で述べられませんが、ここにも未処理の問題が残っていたように思います。

成田空港の視察を終えてみると確かに巨大な事業であると同時に多くの悩みをかかえているようです。例えば京成電鉄が空港乗り入れを目指し建設した高架式鉄道、そのレールも真赤にさびてしまっていたこと。空港の近くに進出し要望している中之口川浸透水排除事業、工場誘致等を陳情するため、東京に残留をお願いし建設省、通産省等をまわっていただくことになりました。この陳情は正午過ぎまで続き、関係省庁に具体的に本村の事情を訴え、早期事業の進行を強く要請されたのでした。

私達は以上のように村長、議長を残し伊豆見学に出かけることにしました。その日の宿は修繕寺にとることにし、新幹線で熱海駅で降り、乗合バスで伊豆半島めぐりをすることにしました。

バスは美しい海岸を走り、伊東、熱川を通り白浜海岸で小休止をし、下田にすすみここで石廊崎にある熱帯植物園を約一時間半ほど観賞することができました。中は熱帯地方のようになっているスチームが通った大がかりなものでした。私達のなじみのあるサボテン、パナナ、パイナップル、コーヒー等、品種も豊富で驚かされました。建物の面積は学校の体育館にまけない大きなもので、維持管理経費を想像するとさすが日本を代表する観光地なのかと考えさせられました。

バスは堂ヶ島を通って、五時には修繕寺につきました。私達が宿泊する修繕寺ホテルは、本村出身で修繕寺に住んでおられる方の紹介で手配していただいたもので、山の登り口にある静かな落ちついた宿でした。ここで一夜をすごし朝九時五〇分に東海電鉄で新幹線三島駅で乗り換え、東京に出て午後一時三〇分のとき八号で帰路についたのでした。

帰りの電車の中で窓辺を走る上越新幹線建設現場をながめ、昔は東京まで一日がかり、それが一時間チョット、大きな時間の変化、これから流れてくる大都市のさまざまな影響にどのように対処すればよいのか、それぞれお考えあったろうことを記し、又今回の研修が有意義に終えましたことを喜んで終ります。

農業委員決まる

会長　曾山　弘

任期満了に伴う、農業委員選挙が七月十五日に行なわれましたが、本村は定数十名に対し、十名の立候補者で無投票で当選されました。尚農業委員会の構成は選挙による委員の他、農協、共済推薦委員と議会が推薦した委員であります。

農業委員会は優良農地の確保と農業経営の合理化を目標とする農地のあっせん等を行ないます。

農地問題、農業問題については農業委員に相談下さい。

七月二十八日初の総会で会長、及び会長代理、新潟県農業会議第一号会議員、自作農資金貸付事前審査委員等の役員を選びました。

会長　曾山　弘
一号会議員　曾山　弘
会長代理　田辺金一郎
委員　鏡　作蔵
〃　長沼　清一
〃　○渡辺仁三郎
〃　○阿部忠五郎
〃　藤村　良平
〃　○間島幸太郎
〃　児玉　重一
〃　野内　敏政

以上十名は選挙による委員

農協推薦委員　○野内　作一
共済推薦　〃　山田　由市
議会推薦　〃　伊藤　寛
〃　野沢熊次郎
〃　高柳　弘
〃　後藤　昭英

○印は自作農資金貸付審査委員

幹事　間島　吉治　木村　恭司
〃　林　昭樹　佐藤　耕二
〃　丸山　新吉

（略敬称）

皆様のお家で古文書、その他参考資料等がございましたら、お手数ながら部落の委員の方又は月潟村教育委員会へ御連絡をくださる様、なにとぞよろしくお願い致します。

村誌編輯委員会が発足

この度月潟村における郷土誌の調査研究と編輯のため、次の通り村誌編輯委員会が発足しました。

会長　金子由一郎
副会長　小林　昌二
委員　鏡、栄作　田中　善一
〃　北　忠子　田辺　正一
〃　藤村　義一　山田一二三
〃　小林　芳雄　曾山九郎八
〃　村松　新吉　間島　義衛

昭和五十年国勢調査

10月1日は国勢調査日

調査のしくみ

調査は総理府統計局を主管庁として、内閣総理大臣→都道府県知事→市町村長→指導員→調査員、の系統を通じて行なわれます。

調査は市町村長の推薦に基いて都道府県知事の内示を得て、内閣総理大臣が任命する国勢調査員が実地の調査にあたります。

調査員は、調査の一週間前の九月二十四日から三十日迄の間に、受持ち調査区内の各世帯に調査票を配布し、調査票の記入を依頼するとともに「調査区要図」と各各世帯のリストである「世帯名簿」を作成することになります。

次に十月一日から五日迄の間に、調査票を回収し、調査員が記入を要する事項を記入し、再検査した上で市町村に提出されます。

調査票

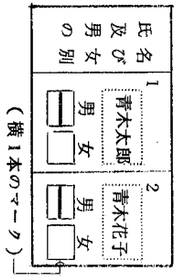
従来は、世帯で記入した調査票をもとに、調査員がマークシート形式の調査票を作成し、それを光学式読取装置という機械にかけて、その記入内容を読み取る集計方式がなされていました。

今回の調査ではそれを一本化し、世帯で直接マーク・シート形式の調査に記入してもらいます。

これはマークの記入条件が従来に比べて緩和され、誰でも簡単に記入できるようになったためです。

従来、世帯で記入する調査票は、青か黒のインキまたはボールペンを用い、又調査事項のうち「男女の別」の1男、2女のように答が択一式の事項について、あてはまる答の数字を○で囲んでいました。

しかし、今回の調査に用いる調査票では、必ず「黒鉛筆」を用い、また「男女の別」のように横一本線のマークを記入する。


例

氏名及び男女の別	
1	青木太郎
男	■
女	□
2	青木花子
男	□
女	■

（満1才のマーク）

「出生の年月」の年と月や、通勤通学の「従業地又は通学地」が他の市区町村である場合の市町村の答を「数字」又は「文字」で記入する事項は従来と同様です。

ただし、この項目については、世帯の記入に基づいて、調査員が所定の要領で該当の箇所にマークを記入することにしています。

（次回に続く）

昭和五十年度国勢調査員を内申!!

今回十月一日を期して、全国一斉に国勢調査が実施されますが、本村の調査区は十八調査区です。調査員は一調査区一名で次のとおり内申し、近く内閣総理大臣より任命される予定です。

調査に当り、皆さんの御協力をお願いいたします。

一〜一　井沢　竹雄
二〜一　曾山　佳夫
三〜一　長岡　章
四〜一　石塚　徳夫
五〜一　阿部　成雄
六〜一　阿部　忠五郎
七〜一　友坂　信儀
八〜一　佐藤　佐久治
九〜一　青木　茂
十〜一　白倉　保
十一〜一　関本　昭治
十二〜一　五十嵐　賢治
十三〜一　阿部　久雄
十四〜一　野口　文栄
十五〜一　栗田　孝治
十六〜一　青柳　秀雄
十七〜一　加藤　進
十八〜一　小湊　文隆